

施策	5402 歴史文化等の保護と活用						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	職員、市民						
施策が目指す姿	歴史的文化遺産の調査・研究・保存の推進、伝統芸能活動等の継承支援、地域資源としての活用策の検討等を図る。						
成果指標	文化財等件数...2022年度で306件(現状値301件) 文化財施設入館者数...2022年度で20,000人(現状値18,999人)						
目 標 達 成 状 況		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	成果指標 1 [ 件 ]	予定	301.00	302.00	303.00	304.00	306.00
		実績	300.00	300.00			
	成果指標 2 [ 人 ]	予定	19,000.00	19,250.00	19,500.00	19,750.00	20,000.00
		実績	20,010.00	15,105.00			
		単位コスト	15.15	33.88			
	成果指標 3 [ ]	予定					
		実績					
		単位コスト					
	成果指標 4 [ ]	予定					
実績							
単位コスト							
トータルコスト (千円)	予定	271,465	535,596	195,795	0	0	
	実績	303,168	511,789	195,795	0	0	
内 部 評 価	貢献度	基本施策を推進するためには、適切な文化財保護や円滑な資料館運営等が必要であるため、本単位施策の上位施策に対する貢献度は高い。					
	達成状況	新規の文化財指定はなかった。文化財施設入館者数については、台風第19号による被災や新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度より減少した。					
	課題	今後、各地域の文化財を掘り起こすことや、現在の指定文化財の再確認が必要である。					
	取組方針	指定文化財の適切な保存・管理に取り組むとともに、伝統芸能活動等の継承を支援しながら、文化財の活用を図る。					
外 部 評 価							
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	525901	伝建地区拠点施設整備事業費				346,268	100
	575101	文化財施設共通管理費				25,235	100
	578001	伝統的建造物群保存事業費				52,473	100
	585806	岩舟石の資料館管理運営費				1,017	100
	719601	文化財補助金				1,325	100
	722401	市内遺跡調査事業費				12,057	100
	735701	小野寺北小学校旧校舎保存解体事業費				14,457	100
	752001	ふるさとの城郭群再発見事業費				31,462	100
	778301	小平浪平顕彰基金積立金				8,906	100
783201	伯仲第一号古墳保存活用事業費				8,054	100	



## 単位施策評価表 補表

施策	5402 歴史文化等の保護と活用		
区分	妥当性	妥当	歴史文化の保護と活用を図る上で必要な事業であり、妥当である。
	コスト削減の余地	有	施設統廃合等によりコストが削減できる余地はある。
	受益者負担	適正	利用者に対しては、妥当な受益者負担を求めており、適正である。
	上位貢献度	有効	適切な文化財の保護と円滑な資料館運営等が必要なことから上位計画に対する貢献度は高い。
	類似事業の有無	無	他に類似する事業はない。
	成果向上の余地	有	文化財の掘り起こしや指定文化財の再確認作業を進めることにより、活用方法の充実等の検討の余地がある。
内部評価	貢献度	文化財の所有者や伝承者の満足度を向上させるためには、保管方法の助言や補助金の支出、無形文化財の発表の場の確保などを含めた適切な文化財の保護と円滑な資料館運営等が必要であり、本単位施策内の個々の事務事業の貢献度は高いと判断した。	
	達成状況	文化財の指定件数は300件となっている。今後も所有者への保存に関する助言等を継続して行い、適切な管理に努めたい。文化財施設入館者数は、台風第19号による被災や新型コロナウイルス感染症の影響により入館者数が減少した。	
	課題	文化財等指定件数増加のためには、今後、各地域の未確認の文化財を掘り起こすことや、現在の指定の文化財の再確認作業が必要である。	
	取組方針	各地域の未確認の文化財の掘り起こしを実施していくとともに、文化資源の有効活用の検討を進める。現在の指定文化財の管理については、計画的に実施する。	